

あとがき

小学生の頃、「小説家になりたい」という夢を持ちました。「簡単になれる職業じゃない」と言われ、あきらめました。中学生の頃、「空港で働きたい」とあこがれました。「容姿端麗な上に体力がないとダメ」と言われ、「自分には無理」と思いました。「ツアーコンダクターとしてあちこち旅をして回りたい」と思ったこともありましたが、「試験が難しい」と言われてやめました。

今、この「あとがき」を羽田空港のラウンジで書いています。この本のもととなった『月刊学校教育相談』の連載原稿も、いつも搭乗時刻を気にしながら空港で書いていました。1年間、全国各地への講演出張の合間に書き続けた原稿が、ついに1冊の本になります。

「あれ?! 子どもの頃の夢が、いつの間にか本当になっている!」

小説ではありませんが「原稿を書くこと」が仕事になり、自分が書いた文章が世の中に出版されます。空港の仕事ではありませんが、たしかに私は空港を仕事場にしています。そして、全国あちこちへ出張しています。

コーチングのおかげで、子どもの頃に、周りの人からいろんなことを言われて一度は安易にあきらめた夢が、今、次々と実現しています。

「夢は叶うんだ！ そんなに難しいことでも苦しいことでもないんだ！」

この実感を、無限の可能性を秘めた子どもたちにできるだけ早く伝えたい、子どもたちとかかわる大人の皆様に一人でも多く伝えたい、そんな想いを込めて原稿を書き続けました。

昔、あこがれた連載原稿の執筆は、実際にやってみるとそんなにかっこいいものではありませんでした。毎回、締め切りを気にしながら頭を悩ませました。この内容で読者の皆様に本当に伝わるのだろうか、いつも不安でした。

毎月、恐る恐る入稿すると、その日のうちに、ほんの森出版の小林敏史さんからあたたかいメールが届きました。「編集者冥利に尽きる原稿をありがとうございます。読んでいてわくわくしました。来月も楽しみです」。その言葉に励まされて、1年間なんとか成し遂げることができました。小林さんは私のコーチでした。この場を借りて、あらためてお礼申しあげます。

そして、執筆にあたって貴重な事例を提供して下さった多くの皆様に心から感謝いたします。

2009年6月吉日

石川 尚子